

第2 各言語の目標及び内容等 3 指導計画の作成と内容の取扱い

P.46～P.47

(2) 内容の取扱い

エ 身近で簡単な事柄について、友達に質問をしたり質問に答えたりする力を育成するため、**ペア・ワーク、グループ・ワークなどの学習形態について適宜工夫**すること。その際、相手とコミュニケーションを行うことに課題がある児童については、**個々の児童の特性に応じて指導内容や指導方法を工夫**すること。

学習形態を工夫し、児童が本当に伝えたい内容を話したり、友達の話す内容を聞いたりすることができる場面を設定していくことが大切。

オ 児童が身に付けるべき資質・能力や児童の実態、教材の内容などに応じて、**視聴覚教材やコンピュータ、情報通信ネットワーク、教育機器**などを有効活用し、児童の興味・関心をより高め、指導の効率化や言語活動の更なる充実を図るようにすること。

第2 各言語の目標及び内容等 3 指導計画の作成と内容の取扱い

P.47～P.48

(2) 内容の取扱い

カ 各単元や各時間の指導に当たっては、**コミュニケーションを行う目的、場面、状況などを明確に設定**し、言語活動を通して育成すべき資質・能力を明確に示すことにより児童が学習の見通しを立てたり、振り返ったりすることができるようにすること。

- ①児童が設定されたコミュニケーションの目的や場面、状況等を理解する。
- ②目的に応じて情報や意見などを発信するまでの方向性を決定し、コミュニケーションの見通しを立てる。
- ③目的達成のため、具体的なコミュニケーションを行う。
- ④言語面・内容面で自ら学習のまとめと振り返りを行う。

外国語科の目標

P.8 枠内

中学年・高学年・中学校で統一

- 外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

中学年「素地」

外国語科の目標

P.10～P.12

三つの柱で目標設定

P.10 一番下の行～

[知識及び技能]何を理解しているか、何ができるか：知識及び技能の習得

→慣れ親しみではない

- (1) 外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気付き、これらの知識を理解するとともに、読むこと書くことに慣れ親しみ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。

P.12 1段落目

例)「読むこと」「書くこと」

- ・英語の文字の名称を発音することができる。
- ・4線の上に書くことができる。
- ・語順を意識しながら書き写すことができるようにする。

外国語科の目標

P.12～P.14

三つの柱で目標設定

P.12 枠の下

[**思考力・判断力・表現力等**]理解していること・できることをどう使うか

(2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、**身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。**

外国語科の目標

P.14～P.15

三つの柱で目標設定

P.14 枠の下

[**学びに向かう力、人間性等**]どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか

(3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、**他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。**

中学年 相手に配慮しながら

各言語の目標及び内容等

P.16枠内

1 目標

英語学習の特質を踏まえ、以下に示す、**聞くこと、読むこと、話すこと【やりとり】、話すこと【発表】、書くこと**の**五つの領域**別に設定する目標の実現を目指した指導を通して、**第1の(1)及び(2)に示す資質・能力を一体的に育成**するとともに、

知識及び技能

思考力・判断力・表現力等

その過程を通して、第1の(3)に示す資質・能力を育成する。

学びに向かう力、人間性等

5つの領域別目標

第2 各言語の目標及び内容等

P.17～P.18

1 目標

(1) 聞くこと

中学年・高学年共通

P.17枠の下3行目

ア ゆっくりはっきりと話されれば、自分のことや身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を聞き取ることが**できる**ようにする。

中学年 外国語活動
「聞き取るようにする」

P.17枠の下11行目

イ ゆっくりはっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、具体的な情報を聞き取ることが**できるよう**にする。

ウ ゆっくりはっきりと話されれば、日常生活に関する身近で簡単な事柄について短い話の概要を捉えることが**できるように**する。

5つの領域別目標 **第2 各言語の目標及び内容等** P.18~P.19

(2) 読むこと P.19の1行目~

読み方=名称
文字を見てその名称を発音できる
名称とは a=ei c=si:

ア 活字体で書かれた文字を識別し、その**読み方**を発音することが**できるようにする。** P.19の8行目~

定着 中学年 外国語活動
文字の読み方が発音されるのを聞いて、
どの文字であるかが分かるようにする。

イ **音声で十分に慣れ親しんだ**簡単な語句や基本的な表現の**意味**
が分かるようにする。 P.19イの枠の下3行目

慣れ親しませる ・日常生活に関する身近で簡単な事柄について、掲示、パンフレットなどから自分が必要とする情報を得る。
・絵本などに書かれている簡単な語句や基本的な表現を識別

5つの領域別目標 **第2 各言語の目標及び内容等** P.19~P.21

(3) 話すこと **[やり取り]**

ア 基本的な表現を用いて指示、依頼をしたり、それらに応じたりすることが**できるようにする。** 定着

イ 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて**伝え合うことができるようにする。**

ウ **自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて**その場で質問をしたり質問に答えたりして、伝え合うことができるようにする。**** P.20ウの枠下4行目~

中学年 サポートを受けてやり取り
中学校 即興で話すことにつながる

(4) 話すこと [発表]

ア 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。 定着

イ 自分のことについて、伝えようとする内容を整理した上で、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。

ウ 身近で簡単な事柄について、伝えようとする内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すことができるようにする。

(5) 書くこと

P.22アの枠下から

・大文字小文字を正しく書き分ける。
・音声で十分に慣れ親しんだ語句や表現を書き写す

ア 大文字、小文字を活字体で書くことができるようにする。また、語順を意識しながら音声で十分に慣れ親しんだ定着簡単な語句や基本的な表現を書き写すことができるようにする。

イ 自分のことや身近で簡単な事柄について、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができるようにする。

P.23の1行目~

例文の中の一文や一部の語を自分が表現したい内容のものに置き換えて文章を書くことができるようにする。

第2 各言語の目標及び内容等

P.23~P.24

〔知識及び技能〕

(1) 英語の特徴やきまりに関する事項

実際に英語を用いた言語活動を通して、次に示す言語材料のうち、1に示す五つの領域別の目標を達成するのにふさわしいものについて理解するとともに、言語材料と言語活動とを効果的に関連付け、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けることができるよう指導する。

P.23下から2行目

獲得した知識や技能が実際のコミュニケーションで活用できるように指導することが大切！

第2 各言語の目標及び内容等

P.24~P.27

ア 音声

(ア) 現代の標準的な発音

イ 語と語の連結による音の変化

P.25

複数の語を連続して発音することが多い。→I have a pen. / Nice to meet you.

(ウ) 語や句、文における基本的な強勢

語における強勢 Apple / 重要な情報に強勢 I go to school.

(エ) 文における基本的なイントネーション

I like soccer very much. ↘ / Are you a baseball player? ↗

(オ) 文における基本的な区切り

第2 各言語の目標及び内容等

P.27～P.28

イ 文字及び符号

(ア) 活字体の大文字、小文字

小学校段階：文字の名称(a=ei c=si:)を聞いてその文字を選んだり、文字を見てその名称を発音したりすることができる。

文字の書き順：標準的な書き順を扱う。

小学校3学年国語科ローマ字表記の指導を踏まえ、指導の工夫が必要
→英語の文字との違いに気付かせながら指導する。

(イ) 終止符や疑問符、コンマなどの基本的な符号

終止符(.), 疑問符(?), コンマ(,)を指導する。

第2 各言語の目標及び内容等

P.29～P.31

ウ 語、連語及び慣用表現

- (ア) 1に示す五つの領域別の目標を達成するために必要となる、第3学年及び第4学年において第4章外国語活動を履修する際に取り扱った語を含む600～700語程度の語

P.30の5行目～

600～700語程度の語発信語彙(話したり書いたりして表現する語彙)と受容語彙(聞いたり読んだりして意味を理解する語彙)の両方を含めた語彙サイズ。全てを覚えて使いこなさなければならない、ということではない。

(イ) 連語のうち、get up, look atなどの活用頻度の高い基本的なもの

(ウ) 慣用表現のうち、excuse me, I see, I'm sorry, thank you, you're welcomeなどの活用頻度の高い基本的なもの

第2 各言語の目標及び内容等

P.31

エ 文及び文構造

次に示す事項について、日本語と英語の語順の違い等に気付かせるとともに、基本的な表現として、意味のある文脈でのコミュニケーションの中で繰り返し触れることを通して活用すること。

P.31一番下の段落

- 文法の用語や用法の指導を行うのではなく、日本語と英語の語順の違い等の気付きを促すようにする。
- 基本的な表現として繰り返し聞いたり話したりして活用すること。

P.80 「言語材料」の学校段階別一覧表 (参考) ※外国語活動編では、P.55

→小学校には「文法事項」はない。

第2 各言語の目標及び内容等

P.32~P.35

エ 文及び文構造

(ア) 文

- a 単文 主語と述語の関係が1つだけ含まれるもの
- b 肯定、否定の平叙文 平叙文:事実などを伝える文。文末に終止符。
- c 肯定、否定の命令文
- d 疑問文のうち、be動詞で始まるものや助動詞(can,doなど)で始まるもの、疑問詞(who, what, when, where, why, how)で始まるもの
- e 代名詞のうち、I, you, he, sheなどの基本的なものを含むもの
- f 動名詞や過去形のうち、活用頻度の高い基本的なものを含むもの

例:I am good at swimming. / I enjoyed fishing. / I went to Okinawa.

P.35 fの2段落目

動名詞や過去形を文から取り出して指導することはしない。

第2 各言語の目標及び内容等

P.35~P.37

(イ) 文構造

a [主語 + 動詞]

例: I went to Okinawa. / I sometimes get up at 6:00.

b [主語 + 動詞 + 補語] のうち、 主語 + be動詞 + 名詞 / 代名詞 / 形容詞

例: My name is Sakura. / This is me. / I am happy.

c [主語 + 動詞 + 目的語] のうち、 主語 + 動詞 + 名詞 / 代名詞

例: I like apples very much. / I like it. / I like playing the piano. / I want to go to Italy.

主語 や 動詞 といった指導はしない。

思考力、判断力、表現力等

P.37~P.38

具体的な課題等を設定し、**コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、**これら表現することを通して、次の事項を身に付けることができるようにする。

思考力、判断力、表現力等

P.38~P.39

ア 身近で簡単な事柄について、**伝えようとする内容を整理した上で**、簡単な語句や基本的な表現を用いて、**自分の考えや気持ちなどを伝え合う**こと。

イ 身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を**推測しながら読んだり**、**語順を意識しながら書いたり**すること。

各言語の目標及び内容等

P.39~P.40

2 内容

(3) 言語活動及び言語の働きに関する事項

① 言語活動に関する事項

(2) に示す事項については、(1) に示す事項を活用して、例えば次のような言語活動を通して指導する。

P.40 2行目

英語の目標に掲げられた「聞くこと」「読むこと」「話すこと[やり取り]」「話すこと[発表]」及び「書くこと」の五つの領域ごとの具体的な「①言語活動に関する事項」に示された言語活動を通して指導することや、「②言語の働きに関する事項」を適切に取り上げて指導が行われる必要がある。

→言語活動が5領域別で整理